

マタイ 25 章 31～46

説教日：2013年5月26日

説教題：人生の総決算の時

暗唱聖句：マタイ 25：40

イントロ

- 竜巻で多くの大人、子供たちが突然いのちを奪われた。自然災害もあれば、人災もある。ボストン、イギリスでの殺人事件。あるいは高齢になってきていて死ぬときが迫っている・・・という人もいる。
- 聖美の母…お祈り感謝…支えられています、充実した毎日。
- いつ、最後の日を迎えるかわかりません。準備ができていますでしょうか。今日、取られるとしたら、神さまの前に立った時に果たして、大丈夫なのでしょうか。
- 今日の箇所から考えてみましょう。

折り

- 主よ、正確に、正しく、御霊に導かれますように。

本論 1：設定の解説

- 人の子・・・キリスト、主の主、王の王となられる時。
- すべての国々の民・・・世界中の人々がよみがえって来る。
- 御国を受け継ぎなさい・・・御国とは？ この地上は御国のひな形、陰、もっとリアルなところ
- 永遠に続くところ
- 羊とヤギを分けるように、人は分けられる、永遠のいのち、永遠の刑罰

- 分けられる基準：何をしてきたか？
- 鍵になっている言葉：「これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さな者たちのひとりにしたのはわたしにしたのです。」
- 人に対して行った善行は、神に対して行ったものと見なされる、逆に、人に対してしなかったこと、神に対してしなかったこと。
- さきほどのサマリヤ人の例もこのポイントを教えている。
- 良い行いを一生懸命、積み上げ、神さまに認めてもらえて、足りないとだめ、ということになるのでしょうか。
- 一見、善行さえ行っていれば、神さまが備えた御国に入れる、というような教えに聞こえる・・・が本当にそうなのでしょうか。

★★実は・・・もう一ひねり、あるのです。

- この教えを聞いている人たちは、宗教熱心なユダヤ人たち、自分たちは、ちゃんと善行を積んでいる、と思っていた人たち。サマリヤ人の喩え（ルカ 10）も、自分は正しい行いをしていると信じていた律法学者がイエスに質問したところから始まった。

- 自分は後ろ指さされることしていない、正しく生きている、と思っている人たちに、考えさせ、悔い改めに導くために、語られたこと。

本論 2 羊と山羊・・・共通点

- 羊たちにイエスは語られた。35節_あなたがたはわたしが空腹であったとき、渴いている時、旅人、裸、病氣、

牢にいたときに、

- いつ？いつ？と聞き返している。つまり、これらの人たちは、人を助けたり、励ましたり、良い行いをしていた時に、純粹に、助けたい、と励ましたい、という動機で行っていた、ということ。
- しかも、したことをすべて「忘れてる」のです。
- これをすれば、私のポイントは上がり、もっと神さまに認めてもらえる・・・と思って行っていなかった。
-
- 愛することがライフスタイル、そのものになっていた。
- 人を愛することがその人の生き方、そのものになっていた、ということなのです。
- あのサマリヤ人も同じでした。純粹に、かわいそうに思ったのです。助けなきゃ。私の人生も、私の財産も、必要としている人に与えることが私の生きる目的、となっていた、ちうこと。
- 一方、山羊の方はどうでしょうか。彼らもいつ、いつ、と聞き返している。
- ここから分かることは、これらの人々は、身近に困った人がいても、手を差し伸べず、時間をつかうこともせず、極めて自己中心的な生き方をしてきた、ということ。困っている人に手を差し伸べなかった、苦しんでいる人たちを心にとめなかった。サマリヤ人の喩えの中の、祭司、レビ

人。

- 本当の意味で人を愛することもして来なかった、のです。
- 思い出してください。イエスが話している相手は、ユダヤ人、善行を行っていると思っていた人たちでした。その彼らの過ちを指摘するために、これらの話しをイエス様はしている。
- ですから、当然、反論する人たちもいると思うんですね。ちゃんと献金もしたじゃないですか。
- ちゃんと教会にもいったじゃないですか。施しもしましたよ。お努めは果たしたじゃあないですか。
- あのサマリヤ人の喩えのなかの祭司も、レビ人も、両方とも宗教的な務めをする人たち、駆け足で、危険な道を歩いていて、その日の宗教的なお務めを果たしたあとだった、その日の善行はちゃんと積んだ、と思っていた。だから、心の中で、私はちゃんとやるべきことはした、だから、いい、これは誰かに任せたらいい。
- 自分で決めた基準、自分で守って、自分で満足している。
- イエス様は他のところでも教えていらっしゃる・・・マタイ6章「人に見せるために人前で善行をしないように」
- ギャラリーを意識するということですよ。常に自分の行動が人からどう見られているか、気にしている人は、本当に意味で人を愛することができないのです。
- 人から褒められてしまうと、天の報いが無くなってしま

う、とイエスは言われる。

- 良い行いをしている自分を意識していて、それを積み上げれば、神さまに認めてもらえることは出来ない相談なのです。それは、自分のためにしかしていないから。

本論3 どうすれば愛に生きることができるのか、

- じゃあ、どうすれば、いいのか。
- 自分の救いのために、良いことを少しでもしようと、とすると、結局、本当の意味で、人を愛せない。
- 答えは「感謝を土台に生きること」なのです。もっと具体的にいうと、「神の恵みに対する感謝を土台に生きること」
- 自分自身、罪赦された存在であり、恵みをいただいている存在なのだ、神さまに愛されている存在なのだ、というところを土台にして生きること。
- 自分自身、罪赦された存在であり、恵みをいただいている存在なのだ、神さまに愛されている存在なのだ、というところを土台にして生きること。
- ユダヤ人・・・旧約聖書の民。・・・これを読めば読むほど、見えてくるのは、何か？それは、箸にも棒にもひっかからないほど、だめな存在であるユダヤたちを、これでもか、これでもか、何度でも赦し、やり直しさせ、愛し続けてくださる恵みの神さま。

- 本当に、自分たちの歴史を見るならば、誇ることでできるものは何一つ無い、神を踏みにじり、人を踏みにじり、自分自身を傷つけてきた存在なのだ、ということ認識すること。
- 今朝の夢・・・昨日グランドホッグを引きそうになった。ノースストリート、ここから3マイル、鹿に注意、ちょっと気になったので、ゆるめ、バックミラーには赤いポルシェ、ゆったり車間を取って走っているな、と思ったところで、飛び出してきた、うそ、11年いて、一度だけ、オポッサムのしっぽを踏みつけた。ついに、グチャ、とやってしまうのか、ボコン、ボコン、とならなかつた、ミラーを見ても、なかつた、ホット胸をなでおろしました。
- でも、今朝、夢、祭り、金魚、こんな大きな金魚、ヒスパニックの人、処分しようとしているから、それはちゃんと飼ってあげなければ、どういうわけか、ガソリンスタンド、金魚はビニール袋、そこに猫が、ああ、猫、だめ、と思わず足で猫を退治しようとしたら、猫を踏まず、金魚を踏んでしまった、その踏んだ金魚を見たんですね。まだ、生きてるんだけど、行きも絶え絶え。その踏んだ感覚が、残って、本当に、いや～～な気分になって、今朝目が覚めた。
- 寝ぼけながら、ああ、自分は随分と人を傷つけてきたなあ、子供に不当にあたったり、軽はずみに話したり、・・・。足に、金魚を踏んだ感覚が残っているので、自分を責める思いが押し寄せて来た。

- そうだそうだ、そうよそうと、と思っている方もいるかも知れませんが、追い打ちをかけないでください。最初から、神さまの前にはばればれ。
- でも、昨日、実は太田尚子さんと刺しでの、教養講座となったのですが、そこで、セルフ・イメージの話をした。クリスチャンのセルフ・イメージの一番、土台にあるのはなにか、そう、「赦された罪人」、サタンは容赦なく、私たちを告発しますが、それでも神は、イエスが十字架で受けた苦しみ、流された血によって清めてくださった。だから、罪人であるにも関わらず、赦されているのです。
- 聖書の中の人物もアブラハム、ダビデ、モーセ。
- にも関わらず、神は、赦し、愛し、立たせてくださっている。
- 私たちはここからスタートするのです。
- この認識があると、よい行いをすることの動機は、何になるか、ということ、神に対する感謝、神の愛に答えたい、という動機になる。
- これが重要。だから、イエス様は、律法の中で一番大切なのは何か？と聞かれると、心を尽くして、神を愛せよ、自分と同じように他の人を愛せよ、とおっしゃるのですが、それだけでは、実は、力が湧いてこない。足りないんです。果てしない目標になってしまう。だから、イエスはヨハネ13：34-35を仰った。

- ここは開きましょう。新しい戒め。
- わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。
- これはどのように示された愛ですか。謙って、足を洗う愛です。十字架に掛かって、自分のいのちを身代わりにする愛です。最大の侮辱を与える人に、赦しを宣言する愛です。
- 良い行いが、神に対する感謝、神の愛に対する応答としてなされていく場合、それは私たちの点数となりません。
- 点数にもなりませんから、忘れることもできるのです。
- イエス様を信じる時、今まで自分の点数と思っていたものも、手放すことができる、そして、今まで子供たちのためにしたこと、人に仕えてきたことを、私のためにしてくれたこととしてカウントしてくださると信じています。

奨励

- 今日、いのちが取られるかも知れない。